

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和 7 年第 3 回 宮城県泉警察署協議会
開 催 日 時	令和 7 年11月21日（金）午後 3 時から午後 5 時まで
開 催 場 所	宮城県泉警察署 3 階道場
出 席 者 等	<p>1 協議会委員</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 出席委員～大場信哉会長、堀越康寛副会長、大泉知保委員、枡澤慶悦委員、小澤洋之委員、板倉恵子委員、高橋歩委員</li><li>・ 欠席委員～南薊愛委員、齋藤直人委員、高澤忠洪委員</li></ul> <p>2 警察署側</p> <p>署長、副署長、刑事官、副参事、会計課長、警務課長、留置管理課長、生活安全課長、少年健全育成官、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長</p>
議 事 概 要	別紙のとおり
備 考	

議 事 概 要

1 報告事項等

(1) 泉警察署の業務概況説明

副署長から泉警察署の業務概況について説明がなされた。

【委員】

警察署の業務が多岐にわたっていることが分かったが、民間企業でさえ人手不足といわれている中、業務を上手く回せているのか。

【署長】

限られた人数で素早く的確に対処しなければいけないが、精神論だけで乗り切れるわけではないので、常日頃から、どうやればもっと効率的に業務を進めることができるかを考え、事務業務については効率化・合理化を進め、余力となって出た部分を現場に対する対応力としてカバーをしながら対処している。

現場対応力が低下すると地元住民の方々の安全・安心を守れないということになるので、この地域を守るのは自分たちだという気概を署員全員が持って業務を進めている。

(2) 管内の治安情勢について

ア 令和7年10月末における刑法犯認知・検挙状況について(刑事第一課長)

刑事第一課長から令和7年10月末における刑法犯認知・検挙状況について説明がなされた。

イ 令和7年10月末における特殊詐欺発生・検挙状況等について(刑事第二課長)

刑事第二課長から令和7年10月末における特殊詐欺発生・検挙状況、SNS型投資詐欺・SNS型ロマンス詐欺の被害状況について説明がなされた。

ウ 令和7年10月末における人身安全関連事案の発生状況について(生活安全課長)

生活安全課長から令和7年10月末における人身安全関連事案の発生状況について説明がなされた。

エ 令和7年10月末における交通事故の発生状況等について(交通課長)

交通課長から令和7年10月末における交通事故の発生状況等について説明がなされた。

【委員】

議 事 概 要

侵入盗や非侵入盗が増えていると説明を受けたが、被害が発生している地域や建物構造の傾向はあるのか。

【署長】

侵入盗は、住吉台地区や鶴が丘地区で空き家を対象とした侵入窃盗事件が多く発生した。

空き家ということで管理の手が行き届かないことから、被害に気付くまで時間がかかるといったケースが多く、付近住民の方から窓ガラスが割れているという通報を受けて確認した結果、被害にあったことがわかるというケースもあった。

空き家を対象とする事件については、地域住民の方の不安を少しでも早く解消するべく、刑事第一課を始めとして地元を管轄する交番等による張り込み捜査や現場鑑識活動などで犯人につながる証拠を発見して犯人を検挙することができた。

空き家の防犯対策で難しいのは、鍵を掛けていたとしても、普段から人が住んでいないこともあり、窓ガラス等が壊されて被害にあってしまうという点である。

長期間不在にする場合や空き家となった場合には、金品類は別個に保管をすることが一番の対策になる。

【委員】

戸建て住宅よりマンションの方が空き巣被害は少ないのか。

【署長】

マンションは、一般民家に比べ、防犯カメラの設置や入口がオートロックになっているなど防犯対策がしっかりしているほか、隣人が一般民家よりも近くに居るため、不審者・見知らぬ人が入りづらい特性があることから空き巣などの侵入窃盗被害にあいにくくなっている。

しかし、過去にはマンションの上階を狙った窃盗犯もいたことから、不在にする際は施錠するようにしていただきたい。

【委員】

ストーカー事案での犯人の男女比率はどちらが多くなっているのか。

【署長】

男性が6割程度で若干多くなっているが、多種多様な事情を背景とするものが多いことから、性別で区分けすることは難しい。

人に好意を持つという気持ちには、個人差もあり、性別に関係なく特異な行動をとるというのがストーカーの特質だと思われる。

議 事 概 要

会いたい、話がしたいという感情が満たされず、愛情から憎しみに変わり命を奪ってしまう悲惨な事件も生じていることから、申出者の身の安全を守るという活動を進める上で、事案の重大性を迅速・的確に把握し対処することが課題であり、責務だと思っている。

【委員】

年末年始にかけて飲酒機会が増えてくる時期になるので、重大事故が発生しないように警戒活動を進めていただきたい。

【署長】

12月から年始にかけて年末年始特別警戒を実施する。

地域住民の皆さんが気持ちよく1年を振り返り、新年になれば新たな年として今年1年頑張ろうという気持ちになれるように各種活動を推進していきたい。

飲酒運転による悲惨な交通事故を身近なところから起こさせないためにも、周りへのお声がけをお願いしたい。

また、ふらふらしている車を見かけたり、信号が変わったのに動かない車などを見かけた際には、安全な所に車を止めた上で110番通報していただきたい。

(3) 泉警察署速度取締り指針について

交通課長から、泉警察署速度取締り指針について説明がなされた。

【委員】

横断歩道を渡ろうしている人を見つけて一時停止した際、歩行者から先に通過するように譲られた場合には、歩行者より先に通過してもよいのか。

【交通課長】

横断歩道を通過する際の通行方法については、横断歩道に明らかに歩行者がいない場合以外は、すぐに停止線や横断歩道手前で止まれるような速度で進行していただきたい。

横断歩道に歩行者がいる場合は、一時停止をして歩行者が横断するのか横断しないのかを見極めていただきたい。

歩行者から、明確に渡らないという意思表示があった場合には、安全を確認した上で通行していただければと思う。

【委員】

市街地を車で走っていると、歩行者の直前を走り抜ける車を見かけることが多いことから、交通事故防止のためにも交通指導取締りを頑張っていただきたい。

## 議 事 概 要

### 【署長】

以前、新聞でも取り上げられたが、宮城県では歩行者がいる横断歩道で停車しない割合が全国ワーストという不名誉な調査結果があったことから、以降各種取組を強力に推進している。

横断歩道を通過する際に気を付けていただきたいのは、反対側から来る歩行者や自転車についてである。

特に自転車等はスピードも早く注意が必要なことから、左右双方を確認し、安全を確かめた上で通過していただきたい。

### 【交通課長】

信号機のない横断歩道における車の一時停止率はJ A F（一般社団法人日本自動車連盟）が公開調査をしているもので、令和2年の宮城県内における一時停止率は5.7%で、当時の全国平均の21%を大きく下回った。

その調査結果を深刻に受け止め、宮城県では毎月10日を「とまれの日」と定め、広報啓発や横断歩行者妨害の取締り重点日とし、更に関係機関団体に御協力をいただき、広報啓発活動等を推進した結果、翌年の令和3年には51.4%、令和6年は70.3%まで一時停止率を上昇させることができた。

引き続き関係機関と協力をして、横断歩道における交通事故防止のための広報活動等を実施していきたい。

## (4) 熊の出没及び対応状況について

生活安全課長から、熊の出没について、地域課長から、熊の対応について説明がなされた。

## (5) その他（委員からの質問、意見、要望）

### 【委員】

勤務先である学校で、学生から各種トラブルや相談を受けることが多いが、内容によっては学校側だけで対応を済ましてよいものか迷う場合がある。

対応要領について線引きが難しい場合はどのようにすべきか教示願いたい。

### 【署長】

各種対応をする際、当事者である各学生の思いや学校自体の方針もあるかと思うが、積極的に警察に相談していただければと思う。

当事者に警察に相談してみても大丈夫かを確認していただき、その上で御連絡いただければ、いろいろな選択肢を考えながら

対応していきたいと思う。

**【会長】**

直面する課題や環境が変化している中で、警察官の方々が勤務されているということを改めて実感した。

我々も、それぞれの地域に戻った際には、具体的に何ができるか分からないが、地域の方々などに協議会のお話をさせていただきたいと思う。

また、警察官の方々は犯人を逮捕するのに恐怖は全くないとは思われるが、熊の対応については十分に気をつけていただき、これからも任務を全うしていただければと思う。

**【署長】**

今いただいたお言葉を励みとし、激励として今後も職務に取り組んでいきたいと思う。

地域のことを一番知っておられる皆様から、貴重な御意見等々を教えていただきながら、ともにより良くするためにはどうしたらいいのか考え、警察活動を推進して参りますので、引き続き様々な御指導をお願いしたい。

**2 次回開催日程について（警務課長）**

次回の泉警察署協議会は、令和8年2月ころに開催したい。